

1 題材 自己を見つめ表現する鑑賞 ～コレクターとして作品を紹介しよう～

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領のB鑑賞の目標を達成するとともに、言語活動を用いてA表現の目標も達成することをねらいとして設定した。

鑑賞をすることは、作者という他者を知ると同時に自己を知る営みでもあると考える。五感でうけとった情報から主観的な想いや考えを想起せずして鑑賞は成り立たない。しかし、こと鑑賞というと作者の考えや思いの答え合わせをしようとする傾向があり、自己を知るために主体的に鑑賞をしようという生徒は少ない。そのため本題材では、作者の考えと自己の考えを分けて考えられること、かつ自分の意見を言語表現できるようになることを目標とする。

また鑑賞者同士で意見を共有することにより、多様な意見や言語表現の方法があることを知り受け止める力を育む。

(2) 生徒の実態

元気で明るい生徒が多い。授業への好奇心も旺盛で、指導者からの問いかけに対し、積極的に反応することができる。その一方で、明確な正解がわからないものに対して、自ら考えを発言できる生徒は少ない。指導者の望む反応に応えることは容易だが、自分で考えを創造し表現することには苦手意識がある。

(3) 指導観

鑑賞は、他者理解と自己理解の二つが行われる行為であることを説明し、生徒が自分で感じたことを認められるよう指導する。

コレクターとは、ある思いから作品を収集する人物であり、収集理由や絵との出会いを人に説明するだけでもその人自身を表現することとなっていることを説明する。

作業の行程としては、二つの作品のどちらの作品が好きかコレクターになりきり選んでもらい、鑑賞した感想と作者への質問をワークシートにまとめてもらう。作家に対し一人一つ質問できる機会を設け、コレクターとして知りたいことをビデオ通話で質問する機会を設ける。

作家の思いを知り、自分の感想が作家の思いと異なるものであっても、それは生徒の生きてきた背景や考え方が反映されているものであること、作者と自身の考えの類似や相違が重要であることを説き、他の鑑賞者にどう説明するか考え発表してもらう。

自分の考えや思いを知り、それを認めることに重点をおいているため、調べた情

報と自分が考えたことを分けて作品について説明できるよう促す。生徒の主観が希薄な発表になることを避ける。

(4) ESD との関連

本学習で働かせる ESD の視点(見方・考え方)

多様性：作者の考えと自分の考え、そして他の鑑賞者の考えなど、様々な考えがあることを知り、他者と自己の類似や相違を理解する。

公平性：作品をどう思うか考える際に、意見の優劣などないことを知る。また自己の考えと他者の考えとを認める。

本学習で育てたい ESD の資質・能力

多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)

一つの作品に対し、様々な解釈があることを知り、楽しむ。

コミュニケーションを行う力

自分とは別の意見を受け止め、また自分の意見を相手に工夫して伝えられるようになる。

本学習で育てたい変容を促す ESD の価値観

幸福感に敏感になる

自分の発想に自信をもち表現する楽しさとそれを人に受容される喜びを知る。人には多様な考えがあり様々な背景があることを学ぶ。

達成が期待される SDGs

4 番 質の高い教育をみんなに

16 番 平和と公正をすべての人に

17 番 パートナリーシップで目標を達成しよう

3 題材の目標

(1) 知識及び技能に関する内容

鑑賞は、他者理解と自己理解の二つの理解が起こる行為であることを理解し、二つの理解に優劣はないことを知る。

(2) 思考力、判断力、表現力等に関する内容

作品を鑑賞し、情報の整理をつけた上で、自分の発想をまとめ上げ表現する能力を養う。また他者の意見を正解とせず、一意見として受け止められる素養を育む。

(3) 学びに向かう力、人間性等に関する内容

自己の考えと他者の考えとを区別して考えることで自己認知を深める。また、物事を細部にわたって観察できる観察力を鍛える。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に取り組む態度
作者の考えと自分の考えとを分けて理解している。	自分の考えと他者の考えを分けて、考えを構築できる。また、それを適した表現で人に伝えることができる。	・忍耐強く作品を細部まで観察している。 ・学習したことをもとに、他の人の考えや表現についても考えようとしている。

5 指導と評価の計画（全2時間 50分×2）

学習のねらい・学習活動	評価の観点			○教科の指導改善につながる留意点【評価方法】 ◎評価規準【評価方法】
	知・技	思	態	
1. 鑑賞は他者理解と自己理解の作業であることを知る。	知 ↓		態 ↓	○知 パワーポイントを使って、本時の目標や活動を説明し、学習の見通しを持たせる。 【活動の様子】
2. 作品を2つ鑑賞する。		思		○鑑賞をする際に、自分の発想を重視するように指導する。
3. 好きな作品を選び、作品を見て感じたことなどを考え、ワークシートにまとめる。				○思 机間を巡視し、適宜生徒の感じたことに対してフィードバックをする【活動の様子】
4. 作家に質問したい内容を考え、ワークシートにまとめる。		思		◎態知 自分の考えを言語化し、素直に表そうとしている。また、作品を細部までよく観察している。【ワークシート】
5. 作家に質問する。			態	○作家に質問ができることをこの時点では伝えずに、自由にワークシートに記述させる。【ワークシート】 ○態 作家に生徒から質問されたことだけ答えるように伝え、質問力を鍛える。【活動の様子】
6. 作家に質問した内容をまとめ、自分がその作品を選ん	知	思	態	○机間を巡視し、作家の考えの紹介になりそうな生徒に指導する。また、発表をする

だ理由を改めて深く考え、発表内容をまとめる。 7. クラスに向けて作品について話す。 8. 発表者じゃない生徒は、他の生徒の発表で気になったことや、考えたことを書く。 9. 発表の総評を受け、振り返りを記入する。自信につなげる。			態	際のアドバイスを適宜指導する。【活動の様子】 ○ひとり一分程度、生徒による質問はなし。 ◎自分の考えをきちんと話せているか。【発表の様子】 ○一人につき感想を書く人を予め三名指導者が決めておく。 ◎態自分との違いや、共感する点など、考えたことを具体的に書けているか確認する。自分の主観を軸として感想を書けることが望ましい。【ワークシート】
【課題終了後】 生徒からの評価を受け取る。				

ワークシートの記述、活動の様子、発表の様子